



恐ろしい台風・竜巻

昭和34年9月、東海地方を中心として、広範囲で大きな被害をもたらした伊勢湾台風。あれから50年という歳月が流れました。

伊勢湾台風をきっかけとして、大規模な災害に備えるための災害対策基本法が制定されるとともに、河川や堤防の改修が進められてきました。また、気象観測も高度化され、事前に備えることができるため、台風の被害は減少傾向にあります。

しかし、日本は地勢的・気象的に繰り返し台風襲われる位置にあります。伊勢湾台風風の教訓を活かし、被害を少しでも抑えるため、しっかりとした対策が重要です。



ご存じですか？

『竜巻注意情報』

平成11年に豊橋市内で発生した竜巻は、多くの建物などを破壊しながら19キロメートルに渡って移動し、多大な被害を出したことで皆さんの記憶に残っていることと思います。

気象庁では、平成20年3月から竜巻などの激しい突風が発生しやすい状況になると『竜巻注意情報』を発表しています。注意情報が発表された場合や、次のような兆候が確認された場合には、丈夫な建物に避難するなど、身の安全を守る行動を心がけてください。

《注意したい兆候》

- ❖ 真つ黒い雲が近づき周囲が急に暗くなる
- ❖ 雷鳴が聞こえ雷光が見える
- ❖ 大粒の雨やひょうが降る
- ❖ 冷えた風が吹く

竜巻の恐ろしさは、建物が破壊されるだけでなく、巻き上げられた瓦や看板などが猛スピードで飛んでくることです。飛散物に当たるとケガを負ったり、最悪の場合は命を落したりします。十分な注意が必要です。



《家庭でできる対応・対策》

- ❖ テレビ・ラジオでの警報・情報をよく聞く
- ❖ 停電に備え、ラジオや照明器具を用意する
- ❖ 屋根・塀などの補強は早めにする
- ❖ 窓ガラスを飛散物から守るため、雨戸を閉めるなど外側から補強する。また、飛散しやすい物を置かないようにする



ドクターヘリの着陸



●ドクターヘリ

生命に関わるような、緊急性や重症度の高い傷病者が発生した時に、いち早く医師による救命処置を行うため、ドクターヘリの出動を要請する場合があります。

このドクターヘリは、空地や駐車場など、皆さんの身近な場所に着陸することがあり、着陸時には、大変強い風が吹き危険を伴います。

消防署では、ドクターヘリが安全に着陸するために消防車両を出動させ、安全なスペースを確保しています。

より早く、より安全に医師が現場に到着するため、市民の皆さんのご理解とご協力をお願いします。